スコップ三味線で川の流れを見る

　６月４日（土）　青森市国際ホテルで「あおもりの川を愛する会」の河川文化講演会が開催されました。今年は、五所川原市在住の「スコップ三味線家元」の館岡 屏風山 氏（本名:高橋 弘之 様）をお招きし、「スコップ三味線で川の流れを見る」と題して１時間の演奏会となりました。

わかった事
・氏は津軽三味線をひけないこと
・昨日は宮城県、明日は岩手県の演奏と大変な売れっこであること。その割に演奏料は安い事。
・写真撮影、ビデオ撮影可で積極的に公表してほしいとのこと
・スコップ三味線用のバチは特性で打楽器用バチとして意匠登録されていること。
　（国でスコップを打楽器として認めたと言っている）
・たたく位置で音階を作れること。
・１秒間に３０回はたたいていることをテレビ局のスーパースローで確認したこと。
・スコップ三味線の資料館をつくろうとしていること。（中身は各地のスコップ）
・五所川原のホームセンターでは、スコップと栓抜きが同じ場所で売られていること。

１時間、軽快なトークで会場は大盛り上がりでした。（お酒も入っていないのに）東京からきた虫明先生（国の防災の大御所で普通は口もきけないほど偉い先生）も壇上にあがり、演奏していただきました。恐れ多いことです。

　演奏は、「智恵子よされ」、「自由」（女子十二楽坊）ほか、美空ひばりの「津軽追分」は苦手なようです。

津軽塗のスコップ三味線

手前が
虫明　日本河川協会会長

家元　館岡　屏風山　氏

天田内川源流の地に標柱建立す

平成２３年７月２９日、あおもりの川を愛する会（会長佐々木幹夫八戸工業大学教授）の会員が、青森市西部を流れる天田内川の源流の地に「天田内川源流の地」と墨痕（ぼっこん）あざやかに揮毫（きごう）されたヒバ材の標柱を建立しました。同会は毎年一箇所、源流の地の標柱を建立しており、今年は６柱目となりました。

会員有志約２５名は、同日午後１時過ぎに野木和公園駐車場に集合し、５台の車に分乗して一路 県道青森五所川原線を五所川原方面に向かい、約２０分後にその地に到着しました。建立のポイントを吟味の上、佐々木会長のツルハシの振り下ろしを開始の合図に、会員それぞれがツルハシ１振り、スコップ４ちょうの道具を駆使し助け合い交代しながら直径約１メートル、深さ約７０センチメートルの穴を掘りました。そして準備してきた標柱をセットし、前面からと側面から標柱の鉛直性を確認して、速やかに埋め戻しをしました。目視による鉛直確認は、会員にとってはそれまでの人力掘削の肉体労働より数段得意とする場面でした。

建立の地は標高約２４０メートルで、薄く雲に覆われた天候の下での作業でしたが、その地その時だけは靄が晴れて、参加者皆が爽やかな森の空気を味わうことができたひとときでした。

天田内川は、青森県が管理する流域面積９.５ｋm2、流路延長約１０.１ｋmの二級河川です。下流部での河川改修は昭和４９(1974)年に河口から３.４ｋmの区間で始まり、平成２３年度末で約６０パーセントの進捗率となります。現在は河口から２ｋm付近地点で流路のショートカット工事が進められています。近傍では東北新幹線新青森開業に伴い新幹線車両基地が整備され、さらに北海道新幹線新函館開業に向けて新幹線高架橋が工事中であり、その水田地区の風景が変わりつつあります。

１．建立予定地に到着。みんなで団結式。

２．建立個所を決定し、佐々木会長の一振りから。

３．みんなで助け合い交代しながらヨイショヨイショ。

４．こんな靄の中で掘削作業を続けていたのです…。

５.「何？ヒバ材の標柱とな？なかなかよいものじゃのう…。」と、会長がつぶやいていたかも知れない。

６．東青地域整備部には諸準備方、ご協力を頂きありがとうございました。

　中田部長からお言葉をいただきました。　森と海までのつながりを大切にしましょう…。

平成２３年８月４日　立ちねぶたの開幕日に、五指川原市オルテンシアで「河川技術講演会」が開催されました。
河川技術講演会は平成１０年から開催され今回で１４回目となります。

「東日本大震災による被害の概要と国土交通省の対応」（講師　川村河川調査官）
「２０１１東北地方太平洋沖地震津波」（講師　佐々木八戸工業大学教授）
の講演が行われました。

川村河川調査官

佐々木教授

三村知事（あおもりの川を愛する会会員です）

４００席の会場は満席となりました。

立ちねぶた
（今年も盛況でした）